

企業だって 森づくり♪

南陽・「草木の森」 国土防災技術株式会社山形支店

なぜなに? やま・もり 山や森についてもっと知ろう!

どうして木を伐ることが森林を守るの?

昭和 30~40 年代、山形県では木材を生産するため、多くの木が植えられました。その後、里山集落の過疎化や高齢化、木材価格の低下などにより、手入れがゆきとどかない森林が増えてきました。

森林は、成長し混みあった木をそのまま伐らずに放置すると、太陽の光を充分にあびられず、元気がなくなってしまう。そこで…

間伐をして混みあった木と木の間を広げ森林を元気にしています



※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して手入れの遅れた森林を整備しています。



ワラビの生育調査

担当者の声



国土防災技術株式会社 山形支店
たかはし ゆうじ
高橋 悠介 さん

間の計画をもって様々な森づくり活動を行っています。

「南陽・「草木の森」の名称の由来について教えてください。」

南陽・「草木の森」は、南陽市宮内の熊野大社の北方約1kmに位置する宮内財産区所有の森林で、(公財)山形県林業公社が管理しています。面積は75.805haです。

「草木の森」が位置する置賜地方は、江戸時代から今日に至るまで「草木」に感謝しその霊に感謝と供養を願って建立されたと伝えられる「草木塔」が数多くある地域です。この地域で森づくり活動を開始するに当たり、当社においてもこのような素晴らしい文化を継承・発展させていくため、協定森林を南陽・「草木の森」と命名し、これまで様々な森づくり活動を行ってきました。

今年で森づくり活動14年目に入るわけですが、これまでの活動内容を教えてください。

企業の森事業では、スギ造林地の「下刈り」と「枝打ち」作業、「キノ」栽培」を行いました。また施設などの整備として「案内板」と「道標」の設置、「四阿」の建設、事業負担金

拠出により「資材庫」と「給水施設」を設置しました。また、地元の方々の共同作業により江戸時代の古道と伝えられているルートを「修験の道」として復元・整備するとともに餅スギ広場に「草木塔」を建立しました。

やまがた絆の森づくり推進事業では、早期緑化が困難とされている「土砂採取跡地の緑化」を目指し、当社が開発した緑化資材などを用いて、周辺の山から採取したヤマモミジやコナラなどの植栽を行いました。また県森林研究研修センターの指導で、平成26年度はワラビ、平成27年度はフナなどを新たな方法で植栽し、生育調査を行っています。

これまでもいろいろな研修を行ってきましたが、今年度は、県山岳連盟の井上副会長から「山の歩き方」と題して、実践的な山の安全管理について学びました。

参加者からは、「雨具で人を運ぶのは初めての体験。現地でする技術だ。」という感想などもあり、大変興味深い研修となりました。今後も森づくりに関する新たな技術や知識の習得に力を入れていきます。

今後の抱負について聞かせてください。

南陽・「草木の森」の活動は、地元の方々をはじめ、やまがた絆の森実施団体、県、市、林業



餅スギの前で集合写真

公社、森林組合、やまがた公益の森づくり支援センターなどの森づくり支援団体など多方面の方々からの支援、ご協力による協働の森づくりプロジェクトです。秋のイベントでは、新たな取り組みとしてホームステイ植樹を計画しているところで。これからも、次期の協定も見据えつつ、協働の絆と輪をさらに広げながら、次代に自信を持って託せるような豊かな森づくりを目指して活動していきたいと思っています。

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。平成29年6月末現在、38企業・団体、33箇所で開催中。

読者プレゼント

当社開発土壌改良材を抽選で8名様にプレゼント。詳しくはP.11をご覧ください。